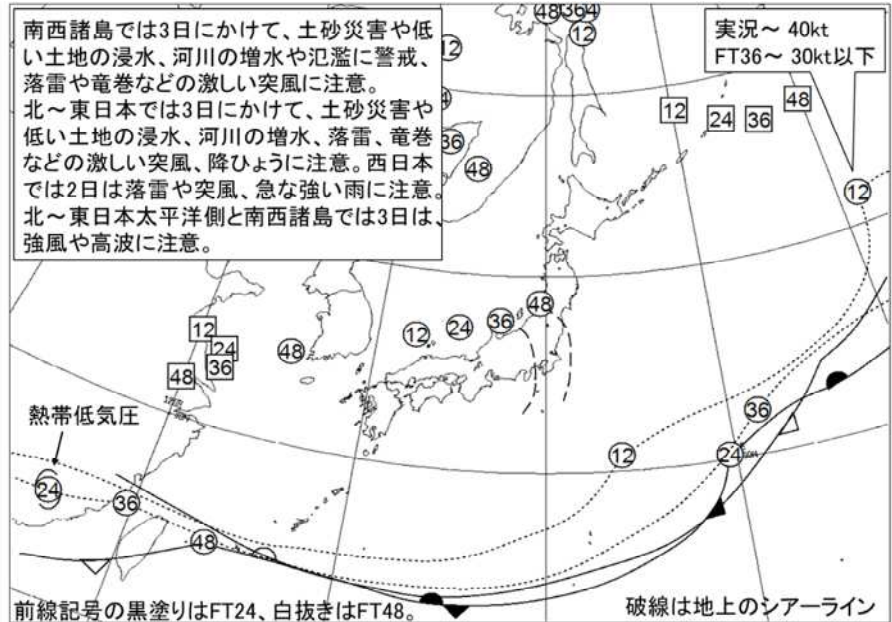


1. 実況上の着目点

- ① 前線が華南から南西諸島付近、日本の南を通過して日本の北へ東へ伸びている。前線上の日本の東に低気圧があって東北東進。前線や低気圧に向かって下層暖湿気が流入し、南西諸島周辺では雷を検知し1時間に30mmの激しい雨を解析。
- ② 500hPa5580m 付近のトラフが日本の東にあって東進。上空の寒気と日中の気温の上昇で大気の状態が不安定となり、北～東日本では雷を検知し1時間に30mmの激しい雨を解析。



主要じょう乱解説図

- ③ 500hPa5580m 以下の -18°C 以下の寒気を伴う寒冷渦が中国東北区にあって、南東進。
- ④ 台風第2号は、1日15時に熱帯低気圧に変わり、華南を北北東進。

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1項①の前線上の低気圧は、2日にかけて日本の東を東進。前線は、日本の南を南下して、2～3日は先島諸島付近に停滞する。前線や低気圧に向かって、850hPa $\theta \geq 345\text{K}$ 以上の下層暖湿気が流入し大気の状態が非常に不安定となり、激しい雨の降る所がある。また、1項④の熱帯低気圧から変わった低気圧が3日には先島諸島付近に進む。南西諸島では3日にかけて下層暖湿気の流入が続くため、大雨となる所がある。南西諸島では3日にかけて、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒し、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。小笠原諸島では2日にかけて、落雷や突風、短時間強雨に注意。
- ② 1項②の寒冷渦は、2日は日本海を南東進し、3日には北日本で動きが遅くなる。寒冷渦に対応する低気圧が、日本海をゆっくりと東北東に進み、3日は北日本を通過する。この低気圧から南東にのびるシアーラインが北～東日本を通過する。上空の寒気と低気圧やシアーラインに向かう下層暖湿気の影響により、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴って激しい雨が降り、大雨となる所がある。北～東日本では3日にかけて、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。西日本では2日は、落雷や突風、短時間強雨に注意。

③ 2項②の低気圧と千島の東に中心を持つ高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、3日は強い風が吹き、波が高くなる。3日は北日本では強風に、北～東日本の太平洋側では高波に注意。

④ 3日は南西諸島では気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹き、波が高くなる。強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報と根拠]

①大雨ポテンシャル(18時からの24時間)：高い所(100mm以上)はない。②波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

5. 全般気象情報発表の有無

「雷と突風及び降ひょうに関する全般気象情報」を17時頃発表予定。